

FILE
41

TEAM FLASH

出場校チーム訪問

清瀬高[東京都]

中内純平
キャプテン(3年)

楽しそうな清瀬でやりたかった●「僕が清瀬に入ったのは、東京の試合を見に行き、楽しそうにやっているのを見て、こういうところでやりたいと思ったから。今は自分が選んだことが正しかったのかなと思っています。インターハイでは、個人戦は一戦一戦向かっていって、自分がやってきたことを出せばいい。団体戦は、盛り上がりやすいし、勢いもつきやすい。楽しくやって盛り上がって、一つでも多く勝てたいと思います」

矢島総一監督

清瀬高、文教大を経て教員に。小学校教員のうち高校教員となり、赴任したのが母校である清瀬高。今年で5年目。一昨年に監督に就任。ソフトテニス高校までプレーし、最高成績はインハイ予選団体2位。



指導哲学は楽しくやろう●「清瀬高ソフトテニス部は、19年間、監督をされていた渡辺常雄監督が全て作ったチームで、僕はそれを引き継いだだけですが、心掛けたのはとにかく「楽しくやろう」ということです。渡辺先生は選手時代には文大杉並高の野口監督とダブルスを組むなど経験もあり、僕は技術も指導力も足元にも及びませんから、自分に何ができるかを考え、そこに行き着きました。自分自身、高校時代、勝ちにこだわりすぎて、最後は楽しくなくなってしまったという反省もあり、生徒たちにはそう感じさせたくなかった。勝つのは大事ですが、じゃあ勝つためには何が必要なのかを考えようというふうに切り替えました」



校舎は都内でも緑豊かな地域にあり、砂入人工芝コート5面はその校舎の奥にある

と伝えても信じきれない。ところが、一部の選手がちよつとずつ勝てるようになってきたら、雰囲気が変わってききました。公立校なので遠征などほとんど行わないのですが、春には外部の試合に出たりして、そこで強い子にも勝てるという手応えを得て、自信がついた」

自信がもたらした一番の収穫は、本当の意味でテニスを、そして試合を楽しむようになったことだ。もちろん緊張は